

# Leica GS09 GNSS 杭打ち観測 Guide



- when it has to be right

**Leica**  
Geosystems



## ■ GS09 GNSS 杭打ち観測

アプリケーションプログラム「杭打ち」を使用して、あらかじめ座標がある測点を現場に杭打ちします。杭打ちすると同時に杭打ち点の観測を行うことも可能です。杭打ち点の座標は、あらかじめ受信機に転送しておくか、現場で手入力する必要があります。

1. メインメニューより [1 杭打ち] を選択します。



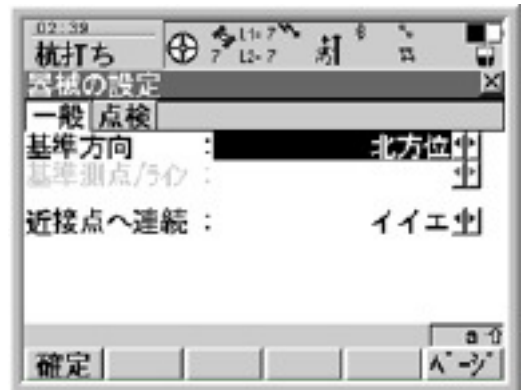
2. 杭打ちスタート設定画面を表示しますので下記の設定をします。

杭打ちジョブ： 杭打ち点が登録されているジョブを選択  
ジョブ： 杭打ちと同時に観測を行う場合の  
保存先ジョブを選択  
座標系： 観測する座標系を選択  
コードリスト： なし



F2 (設定) を押します。

3. 器械の設定を行います。一般画面では下記の設定をします。  
基準方向： 杭打ち時の基準方向を選択  
近接点への連続： イイエ  
F6 (ページ) を押し「点検」ページに移ります。



基準方向は杭打ち点までの基準方向を設定します。  
(主な基準方向)

- “北方位”： 座標系に基づいての北方位を基準として表示
- “太陽”： 現在位置、時間、日付から計算した太陽の位置を基準に表示
- “矢印”： 現在位置から杭打ち点方向を矢印表示

近接点への連続は測点の杭打ち終了後、表示させる測点の順番設定を行います。

- “ハイ”： 杭打ちが行われた測点から一番近い測点を表示
- “イイエ”： 杭打ちが行われた測点名の次の測点名の点を表示

## ■ GS09 GNSS 杭打ち観測

4.

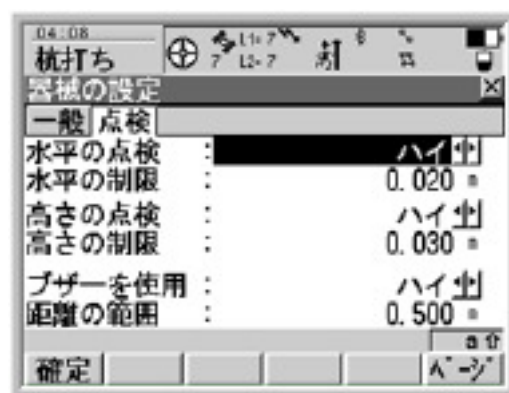
点検画面では、杭打ちと同時に杭打ち点の測定を行った際、精度点検の設定をします。

測定時、制限を超えた場合はメッセージと誤差を表示した画面が表示されます。

ブザーを使用について

“ハイ”：現在位置が杭打ち点から「距離の範囲」で設定した距離範囲内の場合、ブザーをならします。

設定後 F1(確定)を押すと杭打ちスタート設定画面に戻りますので F1(確定)を押します。



5.

杭打ちタスク画面を表示しますでは、下記の設定をします。

杭打ちタスク： 測点のみ

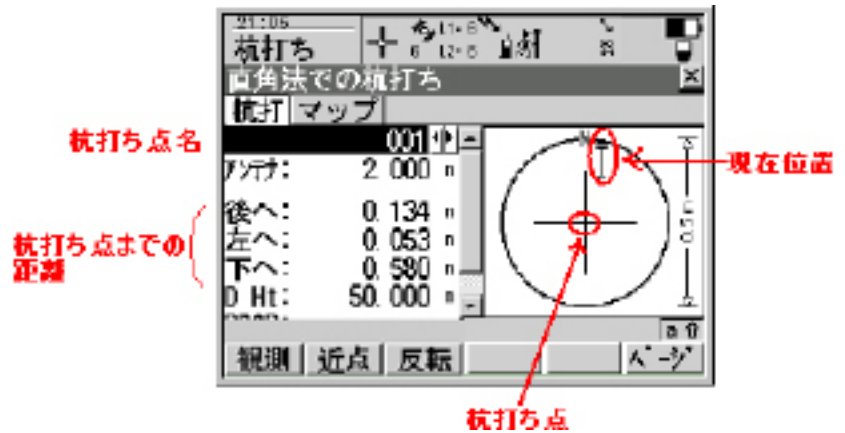
F1(確定)を押します。



## ■ GS09 GNSS 杭打ち観測

7. 杭打ち画面を表示しますので、一番上の項目で杭打ち点を選択します。

グラフィック画面の縮尺は、杭打ち点にどのくらい近づいたかによって自動で切り替わります。



F3（反転）を押すと基準方向が逆に表示します。

特に基準方向を太陽に設定した場合、ポール影、自分自身の影が杭打ち点の方向になるので便利です。

杭打ち点を測定する場合は F1（測定）を押します。

測定した座標と杭打ち点座標が 5 項で設定した制限を超えた場合は、右図画面を表示します。



8. 杭打ち作業終了後は SHIFT キーを押したあと F6（中止）を押すとメインメニューに戻ります。USER と PROG キーを同時に押し電源を切ります。

以上で杭打ちは終了です。



- when it has to be right

*Leica*  
Geosystems